



INFORMATION

2020年度第33回ヴェリタス祭および 聖学院大学同窓会通常総会のご案内

新型コロナウイルス感染症で影響を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

我々同窓会は同窓生と在学生・母校の更なる飛躍のため政府等の発表するガイドラインを遵守し活動を続けて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

2020 年度第 33 回ヴェリタス祭は

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、

例年実施しておりました聖学院大学での開催を中止いたします。

詳細につきましてはこちらでご確認ください。

HP : <https://www.seigakuin.jp/news/info/2020veri/>



CROSS
seig-dousou.com
Point

なお、ヴェリタス祭中止に伴い、

2020 年度聖学院大学同窓会 通常総会におきましても

新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催を中止いたします。

事業報告・事業計画、決算報告等につきましては 11 月末日まで

聖学院大学同窓会 HP にてパスワード付きで

ファイル閲覧可能に致しますのでそちらをご参照ください。

HP : <https://www.seig-dousou.com/>

ユーザー名 : [REDACTED] パスワード : [REDACTED]



ご住所を変更される場合には同窓会ホームページにて変更手続きをお願いいたします。

聖学院大学同窓会会報誌『クロスポイント』第30号 令和2年10月13日発行

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 聖学院大学同窓会事務局

E-mail dousou@seigakuin-univ.ac.jp URL <https://www.seig-dousou.com/>



THE SEIG
ASSOCIATION

危機に際してこそ
「自分がどうありたいか」、
理想像を失わないこと。

聖学院大学同窓会会報誌

CROSS POINT

October 2020 VOL.30



清水学長 & 秋谷会長 対談

危機に際してこそ「自分がどうありたいか」、理想像を失わないこと。

オリンピック開催イヤーとして期待に胸を弾ませ迎えた2020年。

蓋を開けてみれば新型コロナウイルス(COVID-19)感染症*が想像を遥かに上回るスピードで広がり、私たちの日常生活はもとより心の奥にまで浸潤する由々しき事態となりました。

いまだ出口の見えぬ中、大学の授業は、キャンパスは、学生の様子はどうなっているのか、清水学長に伺ってみました。

写真(左)同窓会会長秋谷大輔 (右)学校法人聖学院理事長・聖学院大学学長 清水正之

この対談は2020年8月5日に行われました。*インタビュー中は「コロナ」と略した表現を用いています。

§1 コロナ禍で迎えた春学期の状況

秋谷 今までに経験したことのなかったことが起きています。まずはこの春からの本学の状況を総括していただけますか。

学長 国内の感染拡大が顕著になったことを受け、3月14日(土)に予定していた2019年度卒業式およびグラデュエーションパーティは中止とし、2020年度新入生には動画でメッセージを届ける形を取りました。春学期の授業はオンライン形態で行うことを原則として、学生にはパソコンやルータを貸与することにしました。留学生の中には、帰国できない状況にある学生や、母国でオンライン授業を受講せざるを得ない学生もあり、アルバイトが減少する等で修学を支援する必要もでまいりました。そこで学生生活を支援するため、全学生・全院生に「緊急修学支援金」として60,000円を一律支給しました。この支給にあたっては、大学の特別の積み立てからその費用を支出すると共に、大学後援会、ASFから多大なご支援を賜りました。とくに大学後援会におかれましては、格段のご配慮をいただきましたことを報告すると共に、改めて御礼申し上げます。



秋谷 春学期は、オンライン授業のみで、通常の対面形式による授業は実施できなかったということですね。

学長 緊急事態宣言の終了後、分散登校等の感染予防措置を講じることを条件に「来学来校の機会」を設けました。具体的には学科単位、ゼミ単位での機会提供や「実習」「実技」等対面的授業が必須となっている科目に限定した方法です。これに先立ち6月1日付けで「新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限ガイドライン*」を公示し、レベル0から4までの段階的措置を講ずることにしました。また施行時点のレベルを2に引き下げることで、6月29日から1週間、4年生に対し「来学来校の機会」を実施しました。しかし残念なことに、その後に感染者数が急増し、予定されていた1年生、2年生、3年生については、9月以降まで延期せざるを得なくなりました。

秋谷 と言うことは、1年生は一度も「来学来校の機会」を得られていないわけですね。就職活動中の学生も不安かと思いますが、学生の反応はいかがですか。

学長 アンケートの回答では、「対面授業を実施して欲しい」という声が多々寄せられています。自分たちをもっと「大人として扱ってほしい」ということです。アルバイトなど社会活動をしている彼らからすればもっともな主張だと思います。文部科学大臣の発言においても、オンライン授業と通常授業を組み合わせたハイブリッドな形態を推奨していますし、私自身、もっと大胆であっても良いと思う部分もあります。本来大学は、教員と学生、あるいは学生同士が切磋琢磨する場ですし、大学の授業、ゼミあるいはサークル活動は対面的関わりの中で行われるべきです。しかし、多種多様な考え方、対立した意見がある中では、理性と感情の両面において「中庸」であること

が肝要です。今回のケースでは専門家ですら意見が分かれており「自粛行為」を不要とする方もいるぐらいです。しかし接触の機会を減らす「自粛」が感染拡大を防ぎ、その解除があらたな感染を拡大したことは目の前の経験的な事実です。

秋谷 なるほど。先生としても苦渋の決断だったわけですね。4年生に対しては「来学来校」の機会を実施できたわけですが、その時はどんな工夫をされたのですか。

学長 「来学来校」の機を見るにあたっては感染リスクを取り除くべく、出入り口への検温器の設置、教室の消毒体制の整備、食堂のテーブル上へのパーテーションの設置など学生を迎える準備を進めました。それだけに開始1週間でこれを断念せざるを得なかつたことは大変残念なことでした。



§2 秋学期の見通し

秋谷 秋学期はどうなりますでしょうか。

学長 活動制限レベルは、7月21日に「3」に引き上げました。現時点では、依然として授業形態や授業参加の学生数がいわゆる「三密」を作り出す可能性が否定できないことから、授業実施方法は、継続してオンライン授業を基本とします。一方で「自粛から自衛へ」の備えを行うことを前提に、5週に1度、対面授業週を設け、一部科目のみ対面授業とする方針です。対面授業を実施する週は、その他の授業をリアルタイムなオンライン授業とせず「課題学修型」「オンデマンド型」として機会ロスが生じないような配慮も行います(その後の感染状況の推移を受け、9月3日に活動制限レベルは「2」に引き下げられています)。

秋谷 新生が登校できることを願うばかりですね。ところで、先ほど大学の存在意義についてのコメントをいただきましたが、改めて本学の本来のあり方について、先生のお考えをお聞かせいただけますか。

学長 教員と学生の関係、学生同士もそうですが、通信制大学ではない本学はリアルに切磋琢磨する場であるべきです。それは授業だけに限りません。サークル活動やボランティア活動など、様々な人間関係が生じるところにおいてです。実際、オンラインによる授業形態を導入する局面では、その是非において、一部の先生からは慎重な意見や強硬な反対論がありました。文科省が言い続けてきたICT教育については、実際のところ本学では十分に咀嚼することができないまま今に至っていました。今後この遺産をどう活かしていくか、ポイントはそこにあると思います。

秋谷 具体的にはどういうことでしょうか。

学長 オンライン授業はおよそ3つの形態に分類できます。1つめは

メールで課題を提示し、メールで提出してもらう、顔が見えないやり方になります。2つめは、録画したものを学生の都合の良い時間帯に受講してもらう形式。オンデマンド型です。3つめは、同時双方向型です。Teamsを導入して原則9名の学生と対応しています。いずれも先生がたの対応力も求められます。肝心の学生の評価ですが、ただ課題を出すだけ、模範答案を示すだけですと不満が生じています。その点同時双方向型は学生一人ひとりにその場で向き合えることから満足度は高いわけですが、Wi-Fi環境下で受講しない場合、通信容量において学生の負担が大きくなります。それぞれに一長一短があり、この3種の形態を組み合わせて、最適解を探っているというのが現状です。



§3 コロナ禍で見えてきたこと

秋谷 皮肉なことにコロナで見えてきたこともあるということですね。あえてプラスの効果をもたらすことがあるとしたら、どんな点でしょうか。

学長 まず学生の受講機会が拡大した点ですね。これまで授業に足を運ばなかった学生、拒否していた学生の参加率が上がり、しかもオンライン下ではむしろ生き生きしているという報告もあります。一方で、「緊急修学支援金」の支給のお知らせや、端末の貸し出しの連絡を行なっても返事のない学生が一定数いることもわかりました。おそらくメールを見ていない、日常的に使用していない層と考えられ、いわゆるデジタル・

ディバイドが存在することもわかつてきました。さらに申し上げれば留学生に限って言えばこのような事態に該当する学生はほとんど見当たりません。

秋谷 留学生と言えば、台湾の大学と提携したとお聞きしましたが。

学長 はい、コロナ感染拡大前の昨年12月20日、台湾の長榮大學とダブルディグリー・プログラム実施に関する協定を締結しました²。ダブルディグリー・プログラムとは、連携先の大学と単位の相互認定を行うことにより、2つの大学の学位を取得できる制度です。本プログラムに参加する学生は、聖学院大学と長榮大學から、それぞれ学士の学位が授与されます。今後の展開次第ですのでお約束はできませんが、両大学の授業をオンライン化することができれば、これに参加する学生にとっては大きなメリットになるはずです。学生同士の交流から刺激を得る効果も期待できます。



秋谷 先生がたに生じている変化点についてもお聞かせいただけますか。

学長 先生がたにとっては、勤務形態がリモートワークとなり、本学への「出勤」の必要がなくなりました。授業に専心できる利点を享受できているものと思います。私はと言えば相変わらず電車通勤しています(笑)。組織運営という観点からしますと、コロナ禍での体制がどうある

べきか、検討の余地があると思います。余談ですが、ネット会議では発言者がクローズアップされるものの、周りの空気感や参加者の機微を感じることができません。他者の発言を途中で遮る、被せるような行為も控えることになります。熱のこもった討論がしづらいと言いましょうか、どこで議論を収束させるか、不安になります。これもまた1つの課題ですね。ほかICT教育においては、先生がたの作業効率を改善するという側面も見逃せません。例えば出席状況や成績の履歴管理や集計はオンラインだとすごく楽になります。先生がたのプレゼンテーションスキルを向上させる機会にもなっているはずです。そうした利点を共有していくため、ICT教育関連の人的リソースの強化にも着手しています。さらにオンライン化により資源化された教育コンテンツを今後どう展開していくか、地域還元を視野に入れた検討もなされていくことだと思います。

秋谷 生徒募集、入試への影響はいかがですか。

学長 現時点では順調に推移していると思います。本学にとって留学生の存在は無視できない規模になっていますが、日本語学校を経由している点からして、影響は最小限にとどまっていると思います。日本語学校も休講しているところが多いと思われますが、幸い本学への興味・志望という点では従来通り感じています。むしろ本学の学校説明会において参加者の人数を絞っていることで、志望者のみなさんに迷惑をおかけしているものと思います。入試制度については、総合型選抜において従来の「AO講義型」「AOレポート型」「英語特別」の各入試を再編し「高校までに培った力」と「大学での学びの意欲」を重視する方式に改めました³。

§4 いま伝えたいこと

秋谷 学内の状況、先生の置かれているご事情など、よくわかりました。同窓生に向けてメッセージも頂戴できますでしょうか。

学長 学生にも伝えていることです、できるだけ「自分がどうありたいか」という理想像を失わないで欲しいと思います。今は、経験したことのない事態に遭遇し、目の前のこと一杯になっています。その結果、全体として私たちはどこへ向かうかという配慮が減ってしまっている状況です。学生は課題の量が増えて、それに一生懸命に答えようとする。先生も準備と返答で忙殺されている。そんな中で目標がどうだ、こうだと論じても、互いに実感がないことでしょう。意識を先に向ける暇も余裕もないわけです。にもかかわらず未来は必ずやってきます。だからコロナが終わった後、どうしたらいいか、その先に目を向けておかなければいけないということです。

秋谷 ありがとうございます。ところで、今年の夏は、恒例の「山」には行かないのですか。

学長 (笑)今年も行きます。8月19日からこもります。テントを担い



で5泊6日の予定です。人生最後の北アルプス縦走かもしれません(笑)。携帯電話のつながらないところ、つまりデジタルの渦から離れた自然の中に身を置いて、この先を見つめ直す。ある種の相対化でしょうか。コロナは、リアルを分断し、人間関係を壊す可能性があります。人間が試されているとも言えるでしょう。「神を仰ぎ人に仕う」とは、人に気遣う、配慮する、奉仕するということであって、それはリアルな行為であるわけです。しかし最初からオンラインの世界だけでいこうとすると、そのような生々しい体験が欠如してしまう。今、オンラインを良しとする我々世代には、歴とした生活体験があるけれども、その機会を喪失した若者たちはどうなるのだろうか。彼らがつくる未来は、とんでもない社会になってしまうのではないか。そんな恐れがあります。すでに排他主義や特定の対象を攻撃が始まっています。だから、今こそ、一人ひとりが、正しい人間関係を取り戻すべきじゃないでしょうか。



秋谷 本学のモットーがさらに重要な意義を持つと言うことですね。ありがとうございました。最後に同窓会の近況を学長に報告させていただき、本日の対談を閉じたいと思います。同窓会は毎年、学生のボランティア活動を応援しておりますが、今年度もボランティア活動支援センターが主催する「ボランティア・まちづくり助成事業」に協賛させていただきました。この事業、例年はドネーション(寄付)パーティーとして、ボランティア活動に取組む本学学生へ助成を行う公開審査会の形で行われますが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、審査はオンラインによって実施されることになりました⁴。ボランティア活動自体が危ぶまれる中、今年は8団体のエントリーがありました。外部審査員としてオンライン面談に参加してみて、それぞれの団体がコロナ禍にあるボランティア活動のあり方について工夫を凝らしている様子が伺えました。同窓会からは30万円を支援させていただきましたが、そのうち25万円を8団体に配分するとともに、残り5万円についてはボランティア団体への貸出用のWebカメラを購入し、寄贈させていただきました。今後とも学友会活動や卒業関連事業などへの支援を通して、学生が快適なキャンパスライフを送るために協力を積極的に行っていきたいと考えています。最後になりましたが、このような情勢でお忙しい中、貴重なお時間を割いて対談に応じていただいた清水学長にあらためて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

本文で紹介した情報へのリンク	 *1 ガイドラインのPDF	 *2 長榮大學(台湾)とダブルディグリー・プログラムの説明画面
WEB	 *3 入試制度改革	 *4 学生ボランティアを応援する助成金審査会Zoom開催





聖学院大学大学院

聖学院大学 学務部教務課(入試窓口)
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL:048-780-1801 FAX:048-780-1804



Geigakuin University
Graduate School

	出願期間 消印有効	試験日
秋期	11/9(月)～11/21(土)	11/28(土)
春期	2/1(月)～2/13(土)	2/20(土)

女子聖学院中学校高等学校

〒114-8574 東京都北区中里3丁目12番2号
TEL:03-3917-2277 FAX:03-3917-3680

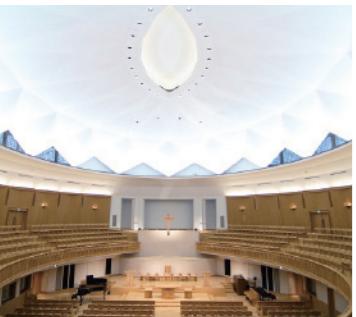


Joshibiseigakuin

入試日程

第1回	2/1(月)午前	英語表現力 日本語表現力	2/2(火)午前	第3回	2/2(火)午後
第2回	2/1(月)午後	言語・数理 リテラシー	2/2(火)午前	第4回	2/3(水)午後

*ホームページ更新中です



聖学院大学

聖学院大学アドミッションセンター
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL:048-725-6191 FAX:048-725-6891



総合型選抜

- 課題解決入試（講義方式）：3期:10/24(土) 4期:12/12(土)
- 課題解決入試（小論文方式）：11/21(土)
- アンバサダー入試：11/14(土)
- 英語特別：3期:10/24(土) 4期:12/12(土)

学校推薦型選抜・その他入試

- 指定校制推薦入試〔専願〕：11/21(土)
- 公募制推薦入試〔専願〕：12/19(土)
- クリスチャン推薦入試：1期:11/21(土) 2期:2/13(土)
- スポーツ推薦入試：1期:11/21(土) 2期:2/13(土)

一般選抜

- A日程【3科目型】：1/29(金)
- A日程【ベスト2科目型方式】：1/29(金)
- B日程【3科目型方式】：2/19(金)
- B日程【ベスト2科目型方式】：2/19(金)
- C日程：3/4(木)
- D日程：3/16(火)

特別入試

- 帰国生・編入学入試：12/19(土)【準備中】
- 社会人入試：12/19(土)
- 留学生：第1回：1次10/10(土) 2次10/24(土)
第2回：1次11/28(土) 2次12/12(土)
第3回：1次 1/30(土) 2次 2/13(土)



聖学院小学校

〒114-8574 東京都北区中里3丁目13番1号
TEL:03-3917-1555 FAX:03-3917-1554



Geigakuin Primary School

2021年度の出願は終了いたしました。



聖学院中学校高等学校

〒114-8502 東京都北区中里3丁目12番1号
TEL:03-3917-1121 FAX:03-3917-1123



Geigakuin Junior &
Senior Highschool

入試日程(中学)

推薦	2/1(月)午前	ものづくり思考力	2/1(月)午後	推薦	1/22(金)
		M型思考力	2/2(火)午後		
一般	2/1(月)午後	難関思考力	2/4(木)午前	一般	2/11(土)

*その他入試につきましては、ホームページをご確認ください



聖学院みどり幼稚園

〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820
TEL:048-622-3864 FAX:048-625-1822



Geigakuin Midori
Kindergarten

入園面接関連日程

願書配布	10/15(木)～10/27(火)	8:00～16:00 (土日を除く)
願書受付	10/28(水)	8:00～12:00
入園面接	11/29(木)	受付順に9:30より面接開始